

第 31 回 京都市西京まちづくり区民会議  
摘 録

【日 時】令和 5 年 2 月 16 日(木) 午後 2 時～午後 4 時

【場 所】京都市西文化会館ウエスティ 1 階 創造活動室

【出席者】(敬称略、五十音順)

- ・ 青木 祐子 京都信用金庫東桂支店支店長
- ・ 井上 学 龍谷大学文学部歴史学科教授
- ・ 小野寺 由美子 区民公募
- ・ 片岡 純治 新林学区自治連合会会長
- ・ 河原 裕 嵐山東学区自治連合会会長
- ・ 小石 玖三主 西京区自治連合会会長
- ・ 小原 喜信 大原野自治連合会会長
- ・ 白須 正 龍谷大学政策学部教授
- ・ 立花 満梨子 西京区社会福祉協議会評議員
- ・ 東條 すえ子 西京少年補導委員会企画副部長
- ・ 中島 清隆 西京保健協議会連合会会長
- ・ 藤本 英子 京都市立芸術大学美術学部教授
- ・ 松本 治行 西京区体育振興会連合会総務
- ・ 水上 象吾 佛教大学社会学部公共政策学科准教授
- ・ 宮崎 秀夫 西京区長
- ・ 安田 淳司 西京区洛西担当区長
- ・ 山本 義博 桂学区自治連合会会長
- ・ 湯浅 文子 西京区民生児童委員会理事
- ・ 吉田 知史 区民公募

【内容】

1 開会

2 勉強会

「京都市の人口問題と西京区のまちづくり」

講師 白須 正 委員

講義要旨

(1) 京都市の人口問題

- ・ 京都市の人口が 2 年連続で減少数日本一になった。京都市の人口は 1980 年代から 147 万人前後で安定していたが、2017 年から人口減少が始まった。
- ・ 京都市の人口の自然減は 2005 年から始まっていた。社会増減では、2017 年以降は日本人に関しては社会減に転じた。
- ・ 西京区の人口は 2000 年をピークに減少している。近年は、都心区で人口増加、周辺区で

減少傾向にある。

西京区は、転出が多く、日本人のみの社会減の数は市内1位である。主な転出先は、大阪市や東京都区部の他に、三島地域、乙訓地域、南丹地域、南山城地域があり、近辺への転出は住宅問題のためと推測される。

- ・西京区は昼夜間人口比が低く、ベッドタウン的要素が強い。また、かつて西京区は若い区だったが、高齢化が進み、洛西支所管内、特に洛西ニュータウンの高齢化率は非常に高い。

## (2) 地域の活性化

- ・地域の活性化には、しごと・ひと・まちの創生が必要。
- ・安心して住み続けられるためには、働く場所、公共交通や自然環境などの都市インフラ、買い物、医療、住宅などの生活インフラが必要。京都の人口が増えなかったのは、京都が嫌いな人が多かったのではなく、適当な住宅を見つけることが難しかった。

## (3) 西京区の活性化（魅力の向上）に向けて

- ・産業の振興により昼間人口を高める。
- ・農業、観光、新産業、新事業の創出。沓掛、大原野インターチェンジへの好アクセスを活かせないか。
- ・市立芸術大学跡地活用について、7.1haもの土地があり多様な使い方が可能である。どのようににぎわい機能を持たせるかが重要である。
- ・京大大学院工学研究科の大学院生や教員にできるだけ西京区に住んでもらう。
- ・住宅問題が最大のポイントであり、京都に住みたい人が住めるよう、空家の活用や住宅建設で住宅供給数を増やすことが必要
- ・子育て世代にとっても、高齢者にとっても住みやすい居住環境の整備
- ・「西京区が独立した市なら」という視点でやるべきことを考えていく。

## (小石議長)

貴重なお話に感謝する。芸大跡地の活用は地元にとって大きな問題だと考えている。インターの真横というポテンシャルを活かしていきたい。桂駅周辺でも空き家が増えており、空家の活用も課題だ。

## 3 意見交換

テーマ：都市のにぎわいをうむために、区民は何ができるか？

住み続けたい選ばれるまちになるにはどうしたらいいか？

### (1) 各グループ発表内容

#### ① Aグループ

教育を軸として人を呼び込むのも案ではないか。幼児から高校・大学まで一貫した教育環境や、独自の教育理念を提供できるような子育て環境があると魅力的だ。竹の里小学校と福西小学校が統合されたが、洛西地域として洛西高校の魅力を高めていけたら良い。

## ②B グループ

働き方が多様化する中で、様々な人にとって住みやすい地域になってほしい。西京区は企業が少なく、卒業後の学生や若者が住めるような、就職先の候補や、起業のしやすい環境が整うと良い。例えば、桂や松尾地域と洛西ニュータウンでは交通環境が異なるが、洛西を自動運転の実験地域にするなどできないだろうか。新しい働き方ができる場やスマートシティとして売り出していけたら面白い。

## ③C グループ

西京区は交通アクセスや若年層の流出など、課題もあるが、課題を認識して地域と事業者で連携している例もあり、京都信用金庫では子育て世帯への金融情報提供に取り組んでいる。芸大跡地については、市の方針が出ていないが、まずは「芸大跡地が気になる」人が集まる工夫をしたほうが良い。土地は広いが、高低差があり使いやすくない。まちに愛着はあっても、住宅費用に手が届かなかったり、保育環境が整っていないと住み続けるのは難しい。若者の転出防止のために自分たちができることとして、古民家を活用した素敵なお店などを紹介して広めていくことも有効ではないか。

## ④D グループ

日本全体で人口が減っているが、人口減少は今に始まったことではなく、予想できたことだ。都市計画は本庁の所管だが、タイミングを逃さず手を打つには、区役所も区の課題を積極的に考え、イニシアティブをとっていかないといけない。

果たして人口増加を目指す必要はあるのか。目指すのならスマートシティ化だろう。スマートシティはニュータウンや芸大跡地のような、インフラが発達していないエリアの方が、可能性がある。ハード面の整備は重要だが、人と人との結びつきも重要だ。日々の生活の中で、人と人との交流が楽しくできるようなまちであってほしい。人口増加が西京区の目指す姿なのか、先を見越して考えていくべきだ。

## (2)総括

(白須委員)

住宅をはじめ、子育て、教育環境をどのように整えていくかが大きなテーマとなる。

また、洛西ニュータウンでは、世代交代はすぐには進まない中でどう活性化するかがテーマとなる。

西京区は良いところであるにも関わらず、市全体でみると、他区に比べて知られていない面もあり、アピールが必要だ。市立芸大の跡地については、西京区としてどのように活用するのか、区民から地域の意見を積極的に発信していくと良いのではないか。

(藤本副議長)

京都市は広いので、区からの声を届けるべきだ。地域の人たちが地域を考え、責任をもち、民間と協力しながら動いていくのが大切になる。今は時代の転換期である。変化をチャンスととらえて、これまでの考え方にとらわれず、芸大跡地の活用、洛西ニュータウンの発展等、西京区の未来に向けて前向きに動いていきたい。

(小石議長)

各グループ良い議論ができていたと思う。両区長退任という大きな節目だが、引き続き頑張って西京区の発展を盛り上げたい。

### 3 閉会

(事務局)

宮崎委員、安田淳司委員は本日が最後の区民会議となるため、一言御挨拶を頂きたい。

(宮崎委員)

4年間大変御世話になった。職員として市政に携わって感じたことを、区基本計画に反映させていただいた。皆様には引き続き基本計画の推進に御尽力いただきたい。平安京遷都は、現在の西京区エリアでの秦氏の貢献があったからともいわれる。京都市が発展していくなかで、西京区はまだまだポテンシャルがある。今後も西京区の動向を追っていきたい。

(安田委員)

4年間ありがとうございました。コロナでできないことが多かったが、西京区はコロナの中でも地域の方が色々と動いていただき、非常にありがたかった。洛西ニュータウンは高齢化が進んでいるが、若い人が入ってくるような仕組みが必要だ。洛西ニュータウンが活力を取り戻したら、市の中で西京区の持つ意味はさらに大きくなる。今後とも皆様に御尽力いただきたい。

以上